



# 吉野作造記念館だより

2015(平成27)年度事業(2015. 4. 1~2016. 3. 12)

〈編集・発行〉特定非営利活動法人 古川 学人

目次

- 国連防災世界会議…………… 1
- 今年度の行事予定…………… 2
- 第4回吉野作造研究賞…………… 3
- 27年度企画展の紹介…………… 4
- 27年度講演・講座・事業の紹介…………… 8
- 27年度 NPO法人古川学人の事業…………… 11
- 総入館者・アンケート…………… 18
- 27年度行事一覧・寄贈資料一覧…………… 19
- 台湾でのシンポジウム…………… 20



## 第3回 国連防災世界会議 パブリックフォーラム

東日本大震災と緊急支援および復興活動の経験を様々な視点から世界の人人々と共有する——未来の地域づくり人材育成についての報告・提案

平成27年3月15日(日) / TKPガーデンシティ仙台会場

《NPO法人古川学人「被災地支援事業」》

主催：大震災と向き合うために・未来の地域づくり人材育成ネットワーク（尚綱学院大学、尚綱学院大学附属幼稚園、認定NPO法人JKSK女性の活力を社会の活力に、相馬高校放送局、特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、吉野作造記念館）

平成二七年三月に仙台で開催された、国際的な防災戦略策定のための第三回国連防災世界会議。そのパブリックフォーラムに、吉野作造記念館も参加しました。パブリックフォーラムとは、会議期間中に国内外の多様な団体の防災や減災、復興に関する取り組みを広く発信するため行われた各種の行事です。延べ一五万人以上が参加しました。

吉野作造記念館が共同主催で参加した本フォーラムでは、四つのセッションに分けて震災復興や原発事故問題等についての活動紹介を行いました。第一セッションでは、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが、世界を変えるため一人ひとりの行動を歌で呼びかけました。また、尚綱学院大学による復興支援活動の報告、相馬高校放送局による演劇やテレビドキュメントを通じた「福島の高校生たちの今」の紹介が行われました。参加者は「被災地で復興に向け頑張っている高校生や若い人に注目し、声を聞いてほしい」と語りました。



本フォーラムは、第三回国連防災世界会議から一周年の機会に、仙台・東北で復興や防災・減災に取り組んできた団体が活動事例などを発表。今後の活動の方向性や課題を話し合い、発信するということでした。

吉野作造記念館は尚綱学院大学森田明彦研究室と共に、プレゼン「東アジアに発信すべき原発の防災対策」第三一回日台工程技術検討会(二〇一五年一月二日)の議論を踏まえ「を行

## 仙台防災

## 未来フォーラム2016

二〇一六年三月一二日

最後の第四セッションは、大川真・吉野作造記念館館長が「吉野作造がわたしたちに語りかけること」と題し、関

東大震災当時の吉野をはじめとする人々の行動について紹介しました。吉野自身被災した中で、独自に被害調査を行い、朝鮮人虐殺事件を指摘したことや、被災者の自立支援事業を展開したことを紹介し、今日にも参考とすべき点が非常に多いと締めくくりました。

参加者：延べ二五〇名  
 (第四セッション：五一名)  
 ※二〇一五年度事業

大川館長による台湾での報告及び意見交換(P20参照)をふまえたものです。日本の原子力政策は世界の政策決定に影響することを認識し、規範的原则・方針の事前合意と情報公開に基づく民主的プロセスによって決定されるべきだと強調しました。そして反省点も含め、福島原発事故の経験を日本は世界へ発信すべき責務があると提言しました。また尚綱学院大学のボランティアチームTASKIによる名取市の仮設住宅への支援活動の報告も行われました。

参加者：計九二名

関連する記事  
 ・南三陸SAP↓P14  
 ・台湾での「エネルギー政策と民主主義」講演↓P20

# 平成28年度の 行 事 案 内

## 4月8～10日 自主映画上映

「ずっと、いっしょ。」上映  
命の大切さを  
大切な人と一緒に  
考えてみませんか？



## 4月23日 東日本大震災復興支援

### チェロコンサート

あなたを忘れない  
こころを結ぶコンサート  
出演 チェリスト 土田 英順氏

## 5月5日 GW イベント

子ども日は  
家族みんなで  
記念館に  
行ってみよう!!



## 5月29日～8月7日 前期企画展

「暮らしの向上を求めて」

## 6月11日・25日 歴史講座

「伊達政宗と大崎ゆかりの家臣たち」

講師 佐藤 憲一氏

## 7月末日 作品募集締め切り

第5回吉野作造研究賞作品募集  
(募集要項は当館 WEB に掲載。)

## 8月 夏休み自由研究サポートし隊!

小学校5・6年生を対象とし、テーマを決め調べてもらい完成するまで職員がサポートします。

## 9月2～4日 第10回吉野ネットワーク交流事業

### 人材育成研修会

若手研究者・学生の人材育成と吉野博士を通じた人的ネットワーク構築を目的とした研修会。

## 10～12月 後期企画展

「吉野作造の平和思想 (仮)」

## 11～12月 後期講座

内容未定

## 10月頃 講演会

第17回読売・吉野作造賞

受賞記念講演会

## 12月中旬 クリスマス会

キリスト教徒の  
吉野博士に  
ちなんだイベント



## 1/29 生誕記念イベント

吉野作造生誕139年&開館22年を  
記念したイベント

## 各種募集について(通年募集)

### ◎平成28年度 友の会 会員募集中

当館の活動を応援する「友の会」を結成し、現在個人会員を募集しております。

当館の利用と事業への参加、会員相互の親睦を通じ、政治・社会・歴史に関する教養を深め、当館および地域文化の健全な発展に寄与することを目的としています。平成28年度より、会員向け新事業「吉野作造市民大学」がスタートします。

入会をご希望の方はどうぞ当館までお申し込みください。

特典 / 種類	会費3000円/年	会費5000円/年
1 入館料無料で観覧できます。	○	○
2 広報物のご案内を発送します。	○	○
3 講演会や講座など無料で参加できます。	○	○
4 販売品を20%割引料金にて購入できます。		○
5 『吉野作造研究』を送付します。		○

第四回

# 吉野作造研究賞

## 概要

い研究者に対しても、「吉野作造研究」への一般投稿に関する規定を定め、同誌第九号から論文の投稿を募集しています。



最優秀賞 武藤秀太郎氏講演 (10月25日)

吉野作造が終生後進の育成に取り組んでいたことに鑑みて、吉野作造記念館では若手研究者の育成と吉野の精神の継承、吉野研究の裾野の拡大を目的とした「吉野作造研究賞」を設けています。応募資格は募集年次の四月一日時点で四〇歳以下の者、対象となるのは政治史・政治思想史等を主題とし、未発表か、もしくは募集年次の三月末日から過去二年以内に刊行・発表された著作・研究論文です。

なお、応募条件を満たさな

今回の第四回吉野作造研究賞では、厳正なる審査の結果、武藤秀太郎氏の論文「吉野作造と中国知識人―キリスト教青年会(YMCA)との関連を中心に」が最優秀賞となりました。武藤秀太郎氏は一九七四年生まれ、現在新潟大学経済学部准教授。選考理由の詳細については、『吉野作造研究』第一号(二〇一五年刊)をご覧ください。

一〇月二五日には、武藤秀太郎氏を吉野作造記念館に迎え、表彰式ならびに受賞者記念講演会を開催しました。記念講演会では、受賞論文で明らかにされた吉野作造と中国知識人との間のキリスト教を通じた交流や、後にキリスト教をめぐって両者の間に起こった葛藤について、分かりやす

いご講演を頂きました。なお、受賞論文は『吉野作造研究』第一二号(二〇一六年四月)に掲載されます。

### 最優秀賞

武藤秀太郎

「吉野作造と中国知識人

―キリスト教青年会

(YMCA)との関連を

中心に―

(書き下ろし)

### 審査委員会

○審査委員長

宇野重規

(東京大学社会科学研究所教授)

○審査委員

村井良太

(駒澤大学法学部教授)

○審査委員

大川真

(吉野作造記念館館長)

(役職は二〇一六年三月現在)  
記念講演会来場者数：二五名

## 第九回吉野ネットワーク

# 人材育成研修会

九月四日～六日

吉野作造を通じた全国的な人的ネットワークの構築を目指し、読売・吉野作造賞受賞者の先生を中心に始まった人材育成研修会は今年で第九回。毎年多くの講師と学生の皆さんにご参加いただいています。

今年の参加学生は、東北大学、慶應義塾大学、青山学院大学、京都大学、駒澤大学から集まった計一八名。全体テーマは「日本のデモクラシー、生誕百周年」で、吉野作造が民本主義を説いた代表論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」の執筆から一〇〇年になるのを記念し、過去・未来の日本の民主主義のあり方について学ぶ場になりました。

三、「清水唯一朗・慶應義塾大学准教授による「戦後七〇年目の日本研究―アメリカ、ヨーロッパ、日本」の二つの講義、吉野作造記念館に戻った最終三日目には、成果報告会として講師陣による一般公開のトークセッションを行いました。

各講演・講義は、『吉野作造研究』第一二号(二〇一六年四月刊行)に掲載予定です。

一般公開来場者数

四日：四四名  
六日：三九名

初日の四日には、荻部直・東京大学教授による基調講演「日本のデモクラシー、生誕百周年」が一般公開で行われました。場所を中新田交流センターに移した二日目には、武藤秀太郎・新潟大学准教授による「吉野作造と福田徳



昨年度企画展

戦後七〇周年記念

日本国憲法の誕生と吉野作造

六月七日〜八月二日

■後援■  
大崎市  
大崎市教育委員会



本企画展では、日本国憲法制定に至るまでの、憲政実現をめざす近代日本人の足跡を辿りました。

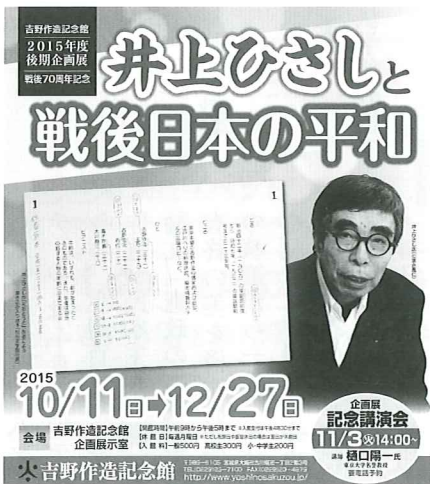
吉野作造が生まれ育った明治初期の宮城は、自由民権運動の最盛期でした。基本的人権を尊重した私擬憲法「五日市憲法」の起草者・千葉卓三郎（現・栗原市出身）を輩出したほか、ここ大崎地域でも多くの民権家が活動していました。吉野の父・年蔵は古川で民権結社の機関誌の販売を行っており、仙台の代表的民権家・若生精一郎は、古川尋常小学校の校長を務めていたこともありました。吉野はそうした社会的土壌の中で育ったのです。  
大正デモクラシー運動の指導者と

昨年度企画展

戦後七〇周年記念

井上ひさしと戦後日本の平和

一〇月二日〜二月二七日



吉野作造記念館の名譽館長を務めた作家・井上ひさしの足跡から、戦後日本の歩みを振り返りました。

一九三四年（昭和九）に山形県東置賜郡に生まれた井上ひさしは、一四歳のとき仙台の児童養護施設「光ヶ丘天使園」に預けられ、多感な少年時代を戦争の記憶さめやらぬ仙台で過ごしました。この頃の経験は、小説『四十一年の少年』『青葉繁れる』（一九七三年）などに描かれています。  
上京後、劇作家の道を歩んだ井上ひさしは、一九六四年（昭和三九）「ひょっこりひょうたん島」が大ヒット。一九七〇年（昭和四五）には初めての小説『ブンとブン』を執筆、一九

■共催■  
井上事務所  
■特別協力■  
仙台文学館  
遅筆堂文庫  
■後援■  
大崎市  
大崎市教育委員会

七二年（昭和四七）『手鎖心中』で直木賞を受賞しました。  
「現代の戯作者」と評されたその作風は、言葉やそれを語る人間に濃やかな愛情を示しながら、戦後という時代にユーモアと風刺を浴びせるものでした。「日本人」であることの意味を問いつつ、「日本人」であることの意味を問いつつ、小説『吉里吉里人』、戯曲『國語元年』、小説『東京セブンローズ』などの大作を次々に発表します。  
また井上ひさしは、戦前日本でデモクラシーと人々の幸せな生活の実現に取り組んだ吉野作造に強い関心を持ち、戯曲「兄おとうと」では、兄・作造と、官僚の立場で産業政策に取り組んでいた弟・信次の、国家観や立場の相違をめぐり葛藤を描きました。

本展ではこれら主要作品の直筆原稿などを展示したほか、「兄おとうと」関連では、旧蔵の吉野作造関係書籍、作品構想メモ、草稿段階の台本など、創作過程が見える展示を行いました。  
展示制作、資料借用にあたっては、井上事務所、仙台文学館、遅筆堂文庫から多くのご高配を賜りました。  
来場者数：一、六八七名

ミニ企画展

「民本主義」一〇〇年展

二〇一六年一月一〇日

ポイント

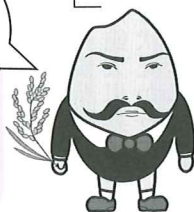
「憲政の本義を説いて

其有終の美を濟すの途を論ず」

政治は

- 一、国民の利福のために
- 二、国民の意向に基づいて行われなければならない

二つ目が重要なポイントだね。



国民による、国民のための政治 = 「民本主義」

普通選挙制度の必要!



「憲政の本義を説いて其有終の美を濟すの途を論ず」  
【中央公論】一九一六年一月号

- 1, Government of the people  
→政治権力の源泉は国民に由来する (国民主義)
  - 2, Government by the people  
→政策の決定に民衆の意向が反映される
  - 3, Government for the people  
→政治は民衆の利福を重んじる
- “Government of the people, by the people, for the people.”  
(A. リンカーン「グティスバーグ演説」1863年)

吉野作造が「民本主義」を論じ、大正デモクラシー運動の指導者の地位を築くことになった金字塔的論文「憲政の

本義を説いて其有終の美を濟すの途を論ず」(『中央公論』一九一六年一月)が発表されてから、二〇一六年一月で

ちょうど一〇〇年となりました。

吉野作造記念館では二〇一六年一月一〇日から、「民本主義一〇〇周年」を記念したパネル展示を行っています。天皇の名において「公論」の必要を宣言し、立憲国家の出発点になった「五箇条之御誓文」(一八六八年)から、自由民権運動、大正デモクラシーの運動、吉野作造の「憲政の本義」論文をめぐって起こった論争、戦後の日本国憲法など、日本におけるデモクラシーの発展を、写真と解説文とで分かりやすく紹介しています。

吉野作造の「民本主義」の主張は、政治は国民の意向に基づいて行われなければならないというもので、そのためには普通選挙の実現が必要だと吉野は考えていました。折しも昨年二〇一五年は、ちょうど戦後七〇年であり、公職選挙法の改正によって選挙権が一八歳の男女にまで拡大され、二〇一六年夏、同法に基づく初の国政選挙が行われる予定です。

「民本主義一〇〇年」そして「一八歳選挙権」という、日本憲政史上大きな節目の二〇一六年。日本や世界の民主

主義のこれからを考える上で、吉野作造をはじめとする先人のたどってきた道を振り返るのはいかがでしょう。

観覧者数：二、一三六名  
(三月三一日現在)

その他の展示

新公開資料展

唐紹儀書額

「舒卷忘食」

(公益財団法人朝日新聞文化財団 文化財保護助成事業)  
八月四日〜十二月二十七日



八月四日から常設展示室前の大型ケースで、近代中国の政治家・唐紹儀(とうしやうぎ)(一八六〇〜一九三八)から吉野作造に贈られた書額

「舒卷忘食(じょかんぼうしよく)」の展示を行いました。

唐紹儀は清末から革命期の中国で活躍した政治家で、中華民国政府の国務総理を務めた人物です。この書額は一九一八年ごろ吉野作造へ贈られたものだと考えられ、二人の間に親交があったことを示す貴重な史料です。しかし、これまで資料の傷みが激しく、公開することができませんでした。そのため吉野作造記念館指定管理者・NPO法人古川学人では、公益財団法人朝日新聞文化財団の文化財保護助成を受け同資料の修繕を行い、公開可能になりました。

「舒卷忘食」とは「食事を忘れて読書に没頭する」という意味で、学問を重んじる唐紹儀の人物がうかがえます。吉野は中国の近代化を目指す運動に深い理解を示し、当時の中国の知識人や政治運動家から厚い信頼を得ていました。吉野作造記念館ではこの唐紹儀額「舒卷忘食」以外にも、吉野と中国との交流を示す多くの貴重な歴史資料を所蔵しています。詳しくはお問い合わせ頂るか、「吉野作造記念館所蔵資料目録(二〇一二年度版)」をご覧ください。

観覧者数：三、二八六名

## 移動展

## 賀川豊彦と吉野作造

— 貧しき者、弱き者のために —

東京都…四月二八日～六月二七日  
徳島県…九月二八日～一〇月九日

当館初の移動展として、平成二六年度の当館企画展「吉野作造と賀川豊彦」が、東京都世田谷区の賀川豊彦記念松沢資料館、九月からは徳島県徳島市のヒューマンわくくびあ徳島にて開催されました。

四月二十九日には松沢資料館にて、大川真・吉野作造記念館館長の講演「本当の人間らしさとは何か—賀川豊彦と吉野作造に学ぶ—」が行われました。貧民街の救済活動や協同組合創始で知られる賀川豊彦、貧困層の医療を行う賛育会を率いた吉野作造、二人の思想や実践には、現代の経済格差や貧困問題を考えるヒントが多くあると紹介しました。会場からは、政治学者・吉野作造とは異なる、社会運動家としての吉野作造を知ったと感想が寄せられました。

来場者数・七二八名(東京)  
九五名(徳島)

## 輝く巨星、二つ

— 賀川豊彦と

吉野作造合同展

賀川豊彦記念松沢資料館

館長 金井 新一



今回、賀川資料館は宮城県大崎市にある吉野作造記念館との合同展を行います。

二つの場所、昨年一〇月と十一月は大崎市で、今年四月末から六月末にかけてはこの松沢資料館という仕方での移動展です。

先日、この資料館でもたれた吉野記念館大川真館長の講演会の出席状況からも、この二つの名前を並べたことが、特に今、ある強いインパクトを持ったのではないかと思われました。言うまでもなく、平和憲法を変えようとしている現政権への批判が次第に高まりつつあるということ。我が国戦後の民主主義と憲法第九条が象徴する平和主義。

それを突き崩そうとする現政府の強い執念。そんな折しも、大正デモクラシーの代表であり、軍部の独走を強く批判した吉野作造と「貧民窟の聖者」と呼ばれ戦前、戦中、戦後を通して、一貫して底辺民衆の立場からの、ありとあらゆる民主的社会的改革の発案者かつ実践者でもあった賀川豊彦という二人の名前が並べられれば、そこに強い一つの方向性が生まれざるをえません。それは平和主義という方向性、また同じことですが反軍国主義という方向性です。

この時の大川館長の講演は「本当の人間らしさとは何か—賀川豊彦と吉野作造から学ぶ—」と題されたもので、現在の日本社会に広がる貧困状況をふまえて、そこから賀川と吉野の思索と実践を考えると、吉野の最後のメッセージとして、氏が語られた、自己主張することが本当の人間らしさなのではなく、「他の人に仕える事の裡に己を活かすのである」という吉野の言葉に、イエスの教えの強い反響を感じたのは、決して私だけではないかっただけでしょう。

さて、この合同展の折、ある人が私に言いました。残念なこと賀川が生涯で一番苦しかったと思われる時期に、早くも(五五歳で)吉野は亡くなっていた。賀川にとって

軍部の圧力に必死に耐えねばならなかった時、吉野が居てくれたらどんなに心強かっただろう。だから賀川は信仰の面でも平和思想の面でもかれに手を差し伸べてくれる吉野を失って、一人で戦わなければならなかったのだ、と。賀川と吉野は関東大震災の際、それぞれのチームを率いて救援活動をしたのですが、そこではからずとも両者の連携が生じ、その後も、吉野は各省庁にかけあって、賀川のセツルメント活動のために便宜を図ってくれたということ。年齢的には賀川のほうが十歳も下でしたが、二人の友情の遠慮がちなが決して弱くとは言えない絆を感じます。たしかに、もしあの時、吉野が生きて居れば、政財界にも強い人脈を持っていた吉野は、軍部の圧迫を緩和させるような何か効果的な援助を賀川に与えることができただけではない。そうすれば、賀川はあそこまで軍部の意向に添った内容の反米放送をしないでも済んだかもしれない。このような私の想像には何の根拠もないのですが、そう思うのもまた人情でしょう。

しかしまた、吉野について今回はじめて知った次のような事実も、かれへの尊敬をさらに強めるものでした。それはかれの当時の生活の困窮です。吉野はある人々を支援するために帝大教授の地位を放



棄して朝日新聞社に入り、その後、評論の内容について新聞社と意見が合わずに退社します。その結果かれは予期しなかったまでの窮乏生活へと投げ込まれたのでした。そして極貧といえるほどの窮迫の中で死に至るまでの晩年を過ごしたと言います。これもまた私の想像ですが、もし賀川がそれを知ったら、即刻、何らかの仕方でも有効な援助をしたでしょう。しかしこれはそのような吉野の状況については何も知らなかったにちがひありません。

これらのことは、偉大な二人の人物をめぐる小さな波紋のようなものでしょう。それがどうであれ、この二人は二つの輝ける星としてわれわれの夜空を飾り、その光によってわれわれの道を照らしています。そして、今、私たちは一つの岐路にさしかかって、改めてこの二つの光に向って、導きを求めるのです。

(賀川豊彦記念松沢資料館発行『資料館ニュース』二〇一五年六月号より再掲)

# 博物館実習

9月8日～12日

今年は宮城学院女子大学から三人の参加者がありました。

五日間の実習の中では学芸員として、博物館・記念館で働くということを広く学んでもらいました。今後の活躍に期待です。



## 二〇一五年度 吉野作造講座

### 春期講座

#### 「自由民権と宮城」

六月一四日・二八日(全二回)  
講師 佐藤 憲一氏



前期企画展「日本国憲法の誕生と吉野作造」と関連し、日本民主主義のルーツと

うべき自由民権運動をテーマとした講座。千葉卓三郎(栗原市志波姫出身)が東京五日市の住民と共に起草した極めて民主的な「五日市憲法草案」や、宮城県内で自由民権結社をつくり、国会開設要求や私擬憲法の起草をした人々の尽力を取りあげました。  
参加者数・延べ五三名

### 秋期講座

#### 「集団的自衛権を吉野作造から考える」

一月三日・二月三日(全二回)  
講師 大川 真館長



本講座では、集団的自衛権の考え方は第一次世界大戦から始まったものであること、吉野作造が現実的な国防政策とあわせ「安心供与」を柱とした国際関係における信頼の構築を重視していたこと、そしてこれは戦後においても国際関係論の重要な二本柱にであることなどを紹介しました。

参加者数・延べ五七名  
(三月二七日再講・二〇名)

## 第一六回 読売・吉野作造賞受賞者講演会

○福永 文夫氏 講演  
一〇月三十一日

### 演題 「戦後日本の出発

#### ― 占領と民主主義 ―

受賞作『日本占領史 1945-1952』(中央公論新社、二〇一四年)は、日本占領の七年間における、占領した側(アメリカ)・された側(日本)双方の日本民主化改革への動きと、その対立・協調の実態を明らかにすることで、「押しつけられた戦後」像を越えた戦後日本の実相を描き出したものです。平易な言葉ながら実証に徹底した内容に、来場者も聞き入っていました。

来場者数・二七名



○木村 幹氏 講演  
十一月四日

### 演題 「日韓歴史認識

#### 問題とは何か」

受賞作『日韓歴史認識問題とは何か』(ミネルヴァ書房、二〇一四年)は、日本と韓国両国間の歴史的事実とは別に、両国においてどのように歴史が認識されてきたかという事実と、それによる「歴史認識問題」のメカニズムを明らかにした論考でした。講演は詳細なデータを示しつつ、軽快な語り口で難しいテーマに切り込むもので、大変好評でした。

来場者数・四三名



## 前期企画展 オープニング記念

○金子 勝氏 講演  
六月七日

### 演題

#### 「日本国憲法の間接的起草者・鈴木安蔵氏

#### ― 吉野作造氏の教導ありて ―

鈴木安蔵に直接師事された立正大学名誉教授・金子勝氏による講演。憲法研究会草案の内容解説や、吉野作造との出会いなど、多くの影響の中で鈴木が切り拓いた独自の憲法学の意義などについてお話しいただきました。憲法学や法解釈というテーマを、独特の語り口でユーモアを交えつつ語る弁舌が大変印象的でした。

来場者数・六一名



後期企画展  
オープニング記念

○樋口 陽一氏 講演会

一月三日

演題

「井上ひさしにとって  
の『人間』と『戦争』」  
―日本文学の定義を変えた作家―



講師の東京大学名誉教授・樋口陽一氏は、井上ひさしとは仙台第一高校の同期生で、その後長く憲法や平和といったテーマで活動を共にされてきました。またお二人は同校で吉野作造の六〇年あとの後輩にあたられます。長年の盟友であり親友ならではのエピソード、そして井上ひさし作品評・人物評を数多くご披露頂きました。

来場者数…一一四名

出前講座

古川商工会議所女性会

創立四〇周年

記念式典講演会

一月五日



大川館長による「吉野作造の女性論と経営論」と題した、「女性」を軸に様々な切り口から吉野作造の生涯を見つめるという講演でした。

来場者数…七六名

郷土史講座

「みやぎの先人  
吉野作造」

二月六日



共催…仙台市民図書館  
会場…せんだいメディアテーク

来場者数…三九名



市民交流事業

NPO法人古川学人が記念館の運営を委託された二〇〇二年から、広く記念館を知ってもらおうと始まった市民交流イベント事業。家族で楽しめるイベントは、記念館の名物となっています。

こどもの日恒例GWイベント。今年はマコロンのマールバツクイズ、古川高校合唱部のコンサート、マジックショー、ソーラーカーレース、フリーマーケットなどで大賑わいとなりました。またNPOハッピーート大崎による大崎の食材を使った料理教室、任意団体（現在はNPO）シナプス40との協力による使わない本やCDの交換会も行われました。

来場者数：869名

5月5日

GWイベント



12月20日

クリスマス会



音楽会にサンタ帽やツリーづくり、吉野作造にちなんだクイズなどが行われました。今年の寸劇はマコロン、歌の本間さん、トリッピーに加え、見習魔法使いのエクレアちゃんも来てくれました。それに、例年通りサンタさんも来たようです。

来場者数：484名

2016年1月30日

吉野作造生誕138年  
記念コンサート



吉野作造の誕生日であり、記念館の開館記念日でもある一月二九日前後には、毎年生誕記念行事を開催しています。二〇一六年は二九日を無料入館とし、三〇日に大崎市内の音楽サークルの皆さんによる記念コンサートを開催しました。出演してくれたのは、大正琴のやさしい畑のみなさん、リコーダーのラス・フラウティスタス・デ・マジョーブのみなさん、合唱のコーラス・夢のみなさんです。いずれのグループも大正から昭和のメロディを中心に、素晴らしい音楽をご披露くださいました。

来場者数：75名



市内学校への教育普及事業

古川第一小学校見学会

古川第一小学校五年生の皆さんが来館してく

平成27年12月2日

れました。吉野作造の直接の後輩にあたる一小的皆さんは、大先輩である吉野作造の業績や、吉野が学んでいた当時の一小について興味津々の様子でした。古川一小では、当館見学会の後、生徒の皆さんがそれぞれに調べたことを発表する『吉野作造新聞』をつくってくれています。今年も多く力作を頂戴しましたので、一部をご紹介します。この他、館内でも公開しています。ぜひご覧下さい。参加者数：107名



**吉野作造新聞**

小山内湊夢さん

私たちがの大先輩吉野作造さんについて、いろいろ調べてみました。吉野作造さんは、明治17年（1884年）1月29日に古川市十日町に生まれました。父は、年商100万円をもち、酒造業を営んでいました。吉野作造さんは、幼少から、父の酒造業を手伝っていました。吉野作造さんは、東京帝国大学で政治学を専攻し、卒業しました。吉野作造さんは、政治小説家として活躍しました。代表作は、『吉野作造』です。吉野作造さんは、1958年に没しました。享年74歳です。

吉野作造さんの高校の後はいくらだったのか？

井上ひさしさんのクイズ

Q1 作家 井上ひさしさんの出身地はどこですか？

A 東京都文京区

Q2 「おひさし」の由来は？

A 「おひさし」は、井上ひさしさんの幼少名です。

Q3 井上ひさしさんの代表作は何ですか？

A 『おひさし』、『おひさしとあひさし』、『おひさしとあひさし』

Q4 吉野作造さんと井上ひさしさんの関係は？

A 吉野作造さんは、井上ひさしさんの祖父です。

吉野作造新聞

小山内湊夢さん

**吉野作造さんと井上ひさしさんに迫る!!**

高橋くじひさん

吉野作造さんって、どんな人？

吉野作造さんは、明治17年1月29日に古川市十日町に生まれました。父は、年商100万円をもち、酒造業を営んでいました。吉野作造さんは、幼少から、父の酒造業を手伝っていました。吉野作造さんは、東京帝国大学で政治学を専攻し、卒業しました。吉野作造さんは、政治小説家として活躍しました。代表作は、『吉野作造』です。吉野作造さんは、1958年に没しました。享年74歳です。

井上ひさしさんって、どんな人？

井上ひさしさんは、東京都文京区に生まれました。幼少から、父の印刷業を手伝っていました。井上ひさしさんは、東京大学で文学を専攻し、卒業しました。井上ひさしさんは、小説家として活躍しました。代表作は、『おひさし』、『おひさしとあひさし』、『おひさしとあひさし』です。井上ひさしさんは、1996年に没しました。享年71歳です。

吉野作造さんと井上ひさしさんの関係は？

吉野作造さんは、井上ひさしさんの祖父です。

吉野作造さんと井上ひさしさんに迫る!!

高橋くじひさん

古川第四小学校見学会

平成27年9月25日

大崎市立古川第四小学校二年生の皆さんが、生活科の「まちたんけん」の授業で吉野作造記念館に来てくれました。地域のいろいろなお仕事をしている施設やお店を歩いて探検する授業です。記念館では、何をみつけたのでしょうか？見学会後、ていねいなお手紙をいただいたので、ご紹介します。参加者数：41名

見学会に行ったときいろいろ話してくれてありがとう。作造さんが書いた文しようおもしろかったです。大きな本もおもしろかったです。こんど、お母さんと行きたいと思います。

いろいろなところをおしえてくれてありがとう。ございませう。ずつと前の本やかいたものがたいせつにとつておいて下さいます。また行きたいです。

みなさんへ。いろいろなコレクションを見せてくれてありがとう。ございました。こんどお母さんといっしょに行きたいと思ひます。そのときはよろしくおねがひします。

元気ですか、けんがくをさせてくれて、どうもありがとう。ございます。

見学会に行ったときいろいろ話してくれてありがとう。作造さんが書いた文しようおもしろかったです。大きな本もおもしろかったです。こんど、お母さんと行きたいと思います。

いろいろなところをおしえてくれてありがとう。ございませう。ずつと前の本やかいたものがたいせつにとつておいて下さいます。また行きたいです。

みなさんへ。いろいろなコレクションを見せてくれてくれてありがとう。ございました。こんどお母さんといっしょに行きたいと思ひます。そのときはよろしくおねがひします。

元気ですか、けんがくをさせてくれて、どうもありがとう。ございます。



おかあさんたちといきたいです。せつめいもじょうずでした。

よしの作造さんのかいた手紙を見せてくれてありがとう。ございます。わたしたちがうまれてないころよし野作造さんが、手紙を書いたんだと思ひます。こんど、家ぞくでいきます。また、いろいろなことをおしえてください。

よくできました！

### 古川中学校 開校記念講話 (四月一日)

大崎市立古川中学校では、毎年開校記念日である四月一日、三年生を対象に吉野作造記念館による講話会を行います。二〇一五年度は大川館長が「古中の先輩・吉野作造からのメッセージ 二〇二五」と題し、吉野のデモクラシー論の今日的な意味を紹介することで、社会に対して貢献することや志をもって将来を展望していくことの大切さを伝えました。

参加者数：二〇〇名

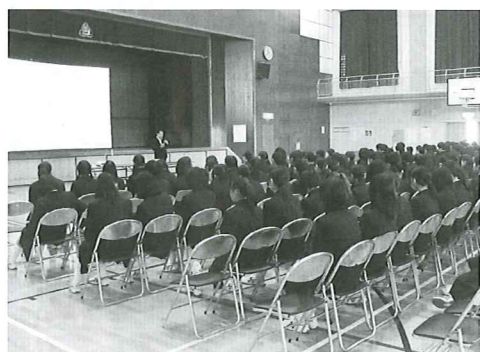
● 今回の開校記念講演で大川真さんが吉野作造について色々なことを聞かせてくれました。他の人を思いやる民主主義を広めたりしてとてもすごいと思いました。そして「人に仕えることの裡に己を生かす」という言葉が心に残っています。

(遊佐魁斗さん)

● 吉野作造は、私たちから見て二五年後の、だいたい四〇歳くらいの時活躍していたと聞きました。私は、自分が四〇歳になったとき、何か誇りの持てるようなことをしていたいと思いました。歴史に名を残すのは無理かもしれないけど、自分なりに頑張りたいと思いました。

(鷹嘴唯菜さん)

● 今、あたりまえにできていることは、昔はそうはいか



(鈴木琉佳さん)

なくて、昔の人の努力によって今の社会があるんだということを感じた。将来、社会に貢献し、人の役に立てるような大人になりたいと思った。自分の意見を言いつづけ、その夢・目標を達成することはすごいと思った。努力することが大切なことを改めて感じた。

### 古川中学校 キャリアセッション

古川中学校では、地域の様々な職業の人の話を聞くキャリア形成のための特別授業・キャリアセッションを行っています。大川館長は二〇一三年度からこの授業に協力しています。二〇一五年度は、二年生と一年生の皆さんを対象に「学者・研究者の仕事」をテーマとして講座を行いました。

大川館長は自身が本分である記念館館長や政治学者としての仕事のほか、石巻のまちづくり委員や奈良県の国際交流の委員など多方面で活動を行っていることを話しました。「ひとつの本業だけでなく、広く社会に目を向け、人の役に立つ色々な活動に参加してみよう。色々な顔を持つ人生の方が面白い」などと中学生に語りかけました。

聴講した生徒の皆さんの感想をご紹介します。

#### Q:「学んだことをどう生かしていくか」を書きましょう。

● 私は将来、人の役に立つ仕事をしたいと思っています。だから、今回学んだ「人の役に立つ」ということは、能力関係なく、みんなができること、また、お金などは気にせず、人のためのことを考えるのを意識していきたいと思います。そして、たとえくじけそうになったら、悲しかったりしたら、最後のまとめの文章（生きていることはすべてムダな

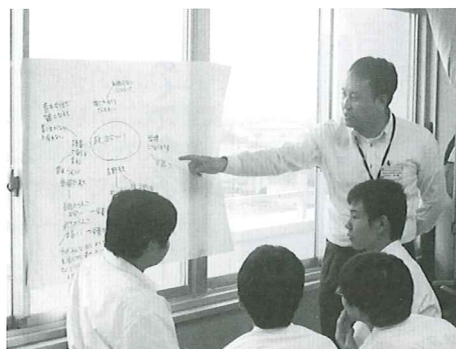
ことではなく、何かの意味がきっとあります。それを感じられるように、それに気づけるように、心のアンテナをしっかりと張っていただくさい。」を思い出して、ポジティブに生きていこうと思います。

(菅原里奈さん)



参加者数：一〇名

○一年生：二月二八日



参加者数：一一名

○二年生：九月一〇日

ると思いました。なので、僕は毎日水泳をがんばっていかないと結果は出ないと考えることができました。

(重高遼汰くん)

2015年度

NPO法人 古川学人 事業報告

事業名	参加者数
※は平成26年度事業もしくは26-27年度事業	
○東アジア交流事業	
・写真展「岡本央が見てきた中国」(2015年3月29日～4月26日) ※	683名 →P12
・韓国・翰林大学校での国際シンポジウムに参加(5月22日)	42名 →P12
・台湾・淡江大学主催の国際シンポジウムに参加(6月6日)	72名
・日韓共同国際フォーラム(8月6日・7日)	25名 →P12
・台湾のシンポジウムで「エネルギー政策と民主主義」講演(12月1日・2日)	21名・130名 →P20
○元気発信「まちカル」事業	
・まちなかカルチャースクール講演会(2015年3月21日) ※	20名 →P13
・わっくわく教室(9月27日)	39名 →P13
・劇団仙台小劇場創立45周年シンポジウム「まちづくりと演劇」に参加(11月22日)	
・ミニ企画展「オライの宝展」(2016年1月10日～3月31日)	→P13
○被災地支援事業	
・第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムにて講演(2015年3月15日) ※	51名 →P1
・「歌と笑いの会」を南三陸 SAP と共催(9月10日)	92名 →P14
・仙台防災未来フォーラム2016にてミニプレゼン(2016年3月12日)	→P1
○環境デモクラシー事業	
・エネシフみやぎ主催「これからのエネルギーを考える井戸端会議」(4月11日)	30名 →P14
○キッズ教育支援事業	
・仙台市立五橋中学校見学(5月12日)	6名
・古川中学校2年生職場体験実習(7月1日～3日)	3名 →P16
・夏休み自由研究サポートし隊！(7月28日～31日)	5名 →P15
・映画「みんなの学校」上映会(9月20日)	104名 →P15
・古川黎明中学校2年生職場体験実習(11月12日・13日)	2名 →P16
・宮崎中学校見学会(12月10日)	38名 →P16
・虹の精保育園研修会	10名 →P16
○ヤングジャパン応援事業	
・関東学院大学見学(9月19日)	4名
・尚綱学院大学研修会(1月9日)	20名 →P17
○シティズンシップ普及事業	
・応援企画「選挙に行こう」選挙+plusへの参加協力(通年)	
・大崎市議員有志による研修会で講演(12月10日)	13名
・古川学園高等学校主権者教育(1月15日・20日)	計135名 →P17
・宮城県登米高等学校主権者教育	計165名
○NPO法人ハッピーート大崎との共催による健康増進事業	
・休憩ラウンジを活用した食育・健康増進・教育等の事業(通年)	
○寄附金募集事業(通年)	
○唐紹儀書額「舒卷忘食」修復事業(朝日新聞文化財団文化財保護助成)	→P5
○個人会員・企業会員の拡大事業(通年)	

NPO法人古川学人では、吉野作造記念館の指定管理事業にとどまらず、「記念館を活用した地域の振興」「吉野作造の精神を受け継ぐ若者の育成」をテーマに、上記のNPO事業を行っています。

これらのNPO事業は、大崎市からの指定管理料とは別に、多くの皆様の善意とご理解に基づく寄付金によって行われています。ここに寄附者の皆様に深く感謝の意を表す

とともに、以下のページにて二〇一五(平成二七)年度のNPO事業をご紹介いたします。なお紙幅の都合上、全ての事業を詳細にお伝えできないことをお詫びいたします。

なお、前年度末(二〇一五年三月)に行った事業のうち、『記念館だより』前号(二二二号)にてご紹介できなかった事業についても合わせてご紹介いたします。

ご寄付頂いた  
皆様のご紹介

二〇一五年三月一六日～  
二〇一六年三月一七日  
公表のご了承頂いた方のみ  
ご紹介させていただきます。  
(受付順)

個人

- 井関 純 様
- 岩田 利真 様
- 大川 真 様
- 斎藤 強一 様
- 高橋 利昭 様
- 立石 孝紀 様
- 立石 庸美 様
- 千葉 繁基 様
- 千葉 成子 様
- 二郷 成子 様
- 平野 一郎・末子 様

- 平野 笑子 様
- 平野 博 様
- 本田 忠 様
- 光田 剛 様
- 三谷 太一 様
- 武藤 秀太郎 様
- 遊佐 賢二 様
- 吉村 敏之 様
- 宮崎 継雄 様
- 万城 牧子 様
- 瀧田 典子 様
- 佐々木 工 様
- 団体 (株)チバミン 様
- 氏名非公表ご希望 五名様
- 合計 一、七四二、五〇〇円

《NPO法人古川学人事業》

東アジア交流事業

吉野作造が中国・朝鮮半島の知識人と交流があったこと  
ちなみ、日本と東アジアの架け橋としての役割を担う事業。

日韓共同国際フォーラム

「東アジアのナシヨナリズムの相剋」  
国際民主主義の可能性―近代日韓知性思想と実践―

(八月六日・七日)



主催・韓国学中央研究院・韓

國學進興事業團(「韓国学  
進興事業団」近現代韓国知  
性史大系)プロジェクト、

東北大学文学研究科(「東北  
からアジア/世界へ」プロ  
ジェクト)、吉野作造記念館

吉野作造は、今からちよう  
ど一〇〇年前(一九一六年四  
月)に韓国を訪れました。そ  
こで、朝鮮の人々と対話し、

実際の生活を目にするこ  
により、日本の植民地支配のあ  
り方を厳しく批判するよう  
になります。本フォーラムでは  
総計二五名の研究者が、吉野  
作造と韓国とのつながりを中  
心に、東アジアの過去・現  
在・未来に関わる濃密な議論  
を展開し、一〇〇年前の吉野  
の志を継承発展させるような  
民間主体の学際交流を、国境  
を越えて深める成果を収めま  
した。

吉野は、どんな人間にも  
「神の子」としての霊性はほ  
たつき(人格)を認めていま  
した。霊性とは、人間の理性  
や感性では認識できない魂の  
響き合いのことです。霊性に  
も善(光)・悪(陰)の両面  
があります。吉野は世界が  
「暗い時代」(アレント)へと  
向かう中で、自己と他者の間

にはたらく霊性を、互いに善  
なる光の方向へと更新し続け  
ることによって、動物化によ  
るナシヨナリズムや、思考放  
棄のもたらし全体主義に流さ  
れない、デモクラシーの人格  
的基盤を築こうとしました。

吉野がめざした「国際民主  
主義」を実現するためにも、東  
洋対西洋、日本対韓国といっ  
た二分法的パラダイムを脱し  
、(ハイブリッド)な認識/実  
践体系を創出することで、東  
アジアの新たな「黎明(刈  
刈)」をとにも開こうとの共  
感を得られた、充実した二日  
間でした。

文責・片岡龍(東北大学)

○発表者とテーマ(敬称略)

- ・尹大植(韓国外大)「事大と自主」
- ・李宅善(成均館大)「植民地韓  
国に対する外部の視線と様相」
- ・洪元杓(韓国外大)「民族の悲  
劇と抵抗に関する物語り」
- ・小嶋翔(吉野作造記念館)「吉  
野作造と在東京朝鮮人留学生」
- ・陳宗炫(東北大・院)「日韓併  
合期の民衆運動にみる宗教の役  
割」
- ・永澤汪恭(「吉野作造通信」を  
発行する会)「人間・吉野作造  
の「語り部」として三〇年」
- ・佐藤太久磨(立命館大)「ナ  
シヨナリズムとデモクラシー」
- ・朱琳(東京大東洋文化研究所)  
「大正知識人をめぐる「中国」
- ・松谷基和(東北大)「押川方義  
と朝鮮」

・鈴木啓孝(東義大)「誰が東亜  
に「調和」をもたらすのか」

○指定討論者・通訳者など

- 小倉紀蔵(京都大)、石田徹  
(島根県立大)、阿子島香、片岡  
龍、佐野正人、森川多聞(以上  
東北大)、宣芝秀、劉田夏、丁

翰林大学校国際シンポジウム

「東アジアにおける想像されたユートピア」

(五月三日)



韓国・翰林大学校科学院主

催で開催された国際学術会議  
「東アジアにおける想像された  
ユートピア」に、当館の大川館長  
が招聘されました。会議には  
韓国、日本、台湾、シンガポ  
ールの研究者が参加しました。

大川館長は、一九二〇年前  
後のユートピア思想隆盛の要  
因として、経済格差が顕著に  
なり労働者や民衆間で相互扶  
助の精神が高まってきたこと、  
第一次大戦を経て平和思想や

濟暎、佐々木隼相、青野誠(以  
上東北大・院)、チエタウル(東  
北大・学部)、今高義也(宮城  
学院中学・高校)、大川真(吉  
野作造記念館)、浅野豊美(早  
稲田大) 参加者数:二五名

人道主義を追求する世界的な  
流れがあったことなどが、当  
時の吉野作造の言論から窺え  
ることを指摘しました。また、  
高麗大学のクォン・ボドゥレ  
教授が、「万歳のユートピア」  
と題し三・一独立運動期にお  
ける民衆の動向や心情に関す  
る研究成果を発表しましたが、  
その中で、この時期の朝鮮の  
民衆の間に「吉野作造博士の  
思想に従って日本も共和政治  
となったので、朝鮮もそれに  
続き近いうちに独立すること  
だろう」という風聞が広まっ  
ていたことが紹介されました。  
一九二〇年前後の東アジアの  
民主化運動における吉野作造  
の持つ重みを改めて知ること  
ができ、また日韓の歴史対話  
を前進させる上で、吉野が良  
質のテーマとなり得ることを  
証明した国際会議でした。

参加者数・四二名

写真展

「岡本央が見てきた中国」

(二〇一五年三月二十九日～四月二六日)

主催：岡本央展実行委員会／共催：NPO法人古川学人

長年中国各地の子どもや人々を撮り続けてきた、大崎市岩出山出身のカメラマン・岡本央(さなか)氏の写真展を開催しました。

中国の子どもたちを写した作品を中心に展示した他、記

念館所蔵史料から中国の革命家・黄興らが吉野に贈った書額を展示しました。

本企画展は、長らく緊張が続いている日中両国関係のあり方について考える機会を、という趣旨で企画されました。

吉野作造もまた、生涯日中の相互理解に尽力しました。

日中両国の相互理解は吉野の時代から今に続く課題です。岡本氏のレンズに写し出された、無邪気でたくましく、どこか懐かしい子どもたちの笑顔は、相互理解は決して難しくはないという不思議な説得力を持っていました。

来場者数：六八三名  
※二〇一五―一六年度事業



《NPO法人古川学人事業》

「元氣発信『まちカル』事業

「街(タウン)・文化(カルチャー)・元氣(パワー)」をテーマに、様々な企画を通じて「人」と「人」との「繋がり」を深め、人的ネットワークの構築を中心として地域を活性化する事業。

「再生する聖地―チベット文化圏の内と外」

講師：菊谷 竜太氏(東北大学専門研究員)

(二〇一五年三月二日)



陶器などを中心に多様なグッズを取り扱う大崎市の雑貨店「クラフト木村」では、地域文化振興のため店内で定期的にさまざまなワークショップや学習会を開催しています。この日はNPO法人古川学人との共催で、チベット仏教の専門家である菊谷氏を講師に招き、講演会を開催しました。

「わっくわく教室」

九月二七日

菊谷氏は臨終や葬送の儀式にみられるチベット仏教の死生観に触れながら、グローバル化する世界の中で異文化を理解することの意義を説きました。

参加者数：二〇名  
※二〇一五年度事業



何度例しても起き上がる「おきあがりこぼし」作り教室を当館にて開催しました。講師は

大崎市古川出身の造形作家である姉齒公也氏。

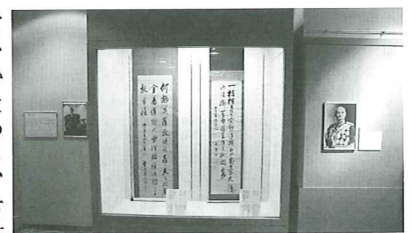
あらかじめ発泡スチロールを削って形を整えたおきあがりこぼしに和紙を貼り、絵の具で自由に描いてもらいました。参加してくれた子供たちは、色鮮やかな配色で、猫やアニメキャラクターなど自由に思い思いのオリジナル「おきあがりこぼし」を作っていました。

参加者数：三九名

「オライの宝展」

二〇一六年一月一〇日～三月二日

大崎にお住まいの市民の皆様がお持ちの歴史資料コレクションにスポットを当てるといふ、当館としては初めての市民参加型の企画展です。今



回は大崎市田尻にお住まいの齋藤肇さんのコレクションを展示しました。齋藤さんは市内で農業を営むかたわら、古書を中心にコレクター歴二〇年。今回はそのコレクションの中から、種田山頭火、与謝野晶子などの色紙や短冊、齋藤茂吉の葉書など文学者関係、それに山県有朋や大槻磐溪の揮毫など政治家・思想家の関係史料を中心に計二五点を展示しました。

純粋な興味で収集した個人コレクションには、博物館や美術館のテーマ展とはまた違った面白さがあります。吉野作造たちの明治文化研究もまた、元々プロの歴史学者ではない面々が興味で始めたものでした。

特に近代史の歴史資料は、蔵の中から古書店、家のタンスや戸棚まで、どこにあるか分からないものです。そんな歴史資料を自分で探し、触れ、集める楽しさを感じてもらいたい。本企画展のテーマです。

来場者数：二、一三六名

《NPO法人古川学人事業》

# 被災地支援事業

東日本大震災の津波被害を受けた石巻地域などへの支援事業。

南三陸SAP主催

## 「歌と笑いの会」

九月一〇日



南三陸SAP（スマイルアゲインプロジェクト）は、二〇一一年七月に創設されたボランティア団体です。当時の宮城県古川高等学校の生徒および、元校長の鈴木悟氏が中心となり結成、東日本大震災による甚大な津波被害を受けた南三陸町で、住民のみな

んに笑顔を届ける支援活動を継続的に取り組んできました。現在は宮城県志津川高等学校の関係者の方々と共に、年三回、仮設住宅での交流会や南三陸の保育所・幼稚園でのクリスマス会などを企画運営しています。

今回、吉野作造記念館を会場としたイベント「歌と笑いの会」（企画委員長・石田和さん）を開催しました。NPO法人古川学人は共催として、当日の会場提供の他、リハールを含むサポート、広報面での協力を行いました。

当日は市内からお集まり頂いたお客様、南三陸町からの招待客も合わせ、大いに盛況となりました。合唱会やジャンケン大会、宮城大学のサークル「宮城大学娘雀」による雀踊りがオープニングを飾った他、市内でレストランを経営するキッチンパパさんによるギター弾き語り好評



でした。みやぎ宝大使で俳優の高山広さんによるひとり芝居は、確かな演技力と本格的な演出で独特の世界観を見事に表現し、参加者に笑いと感動を届けました。特別ゲストとして大崎市のゆるキャラ・パタ崎さんも来てくれました。NPO法人古川学人は、今後も笑顔を届ける南三陸SAPへの協力と支援を続けていく予定です。

参加者数・九二名

### 関連する記事

- ・国連防災世界会議↓P1
- ・台湾での「エネルギー政策と民主主義」講演↓P20

《NPO法人古川学人事業》

# 環境デモクラシー事業

自然や環境について学び、人々のこれからの生活について考えるプロジェクト。

## これからのエネルギーを考える井戸端会議

四月一日



太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーに関する情報の共有や勉強会に取り組む市民団体「エネシフみやぎ」主催、NPO法人古川学人共催による勉強会。

チエルノブイリ原発事故を契機に脱原発を志し、大手電力会社からの圧力と闘いながら自然エネルギーによる独自の電力供給を実現した、ドイツの町シェーナウの事例をもとに、これからのエネルギー

を考えるというものでした。

シェーナウ取材した映画の上映会の後、エネシフみやぎ代表の浦井彰氏と、吉野作造記念館の大川真館長の対談会が行われました。浦井氏は、住民主体の地域再生エネルギー事業は、大手電力会社による一極集中から脱却する、電力の「地方分権化」の試みとも言えると語りました。大川館長は、シェーナウの住民が、地道な戸別訪問による説得、原発依存反対を呼びかけるクッキーやTシャツなどのグッズなど、様々な工夫をこらした具体的かつ建設的な行動を続けた点を指摘しました。

また浦井氏は、地域再生エネルギー事業などが盛んな地域は、必ず女性を中心にいると指摘。震災を契機に、積極的に声を出し、前が出る女性が増えたとして、会場でも多くを占めた地域の女性に対し大きな期待を寄せました。

参加者数・三〇名

「NPO法人古川学人事業」

# キッズ教育支援事業

宮城県内の小中学校の生徒・先生を対象とした教育支援事業。

夏休み自由研究  
サポートし隊！

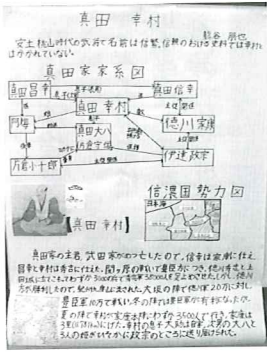
七月二十八日〜三十一日

記念館職員が小学生の自由研究を全力でサポートする夏の恒例企画。二〇一五年は五人が参加してくれました。

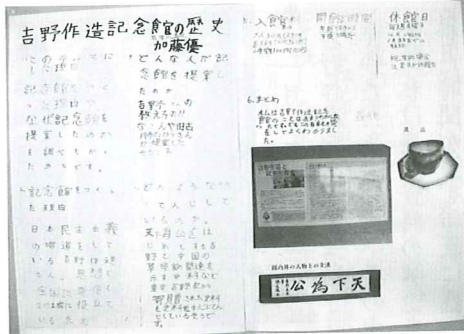
「真田幸村」

古川第三小学校六年

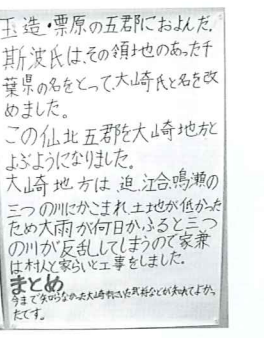
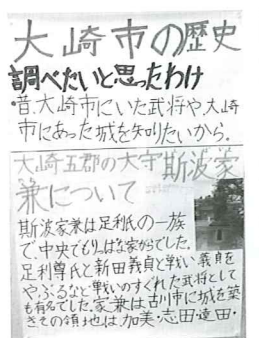
熊谷朋也くん



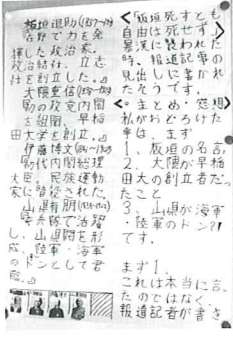
古川第二小学校五年  
佐藤夏実さん



古川第三小学校五年  
加藤 優さん



古川第三小学校六年  
瀧島 颯太くん



古川第五小学校五年  
島田めぐなさん

大阪市立大空小学校の一年を追ったドキュメンタリー映画「みんなの学校」(真鍋俊永監督、関西テレビ放送制作、二〇一四年)の自主上映会を行いました。本上映会は作品の配給会社である東風の許諾のもと、NPO法人古川学人「キッズ教育支援事業」として同法人の主催により行われたものです。

この映画の舞台である大空小学校は、二〇〇六年に開校した公立小学校です。特別支援学級を設けず、障害を持つ



映画「みんなの学校」  
上映会  
九月二〇日

た児童もその他一般の児童と同じ教室で学ばせる、保護者や地域の大人たちがボランティアとして教育に参加するなど、独特な取り組みを続けています。さまざまな問題行動から学校に通うことすら困難な児童が、他校から転校してくることも少なくありません。そんな彼らがやがて休むことなく学校に通い、居場所を見つけていき、そして周りの児童、さらに教師、大人たちも、問題を抱えた新たな児童を受け入れる奮闘の中で成長していきます。本作品はそうした大空小学校の日常の中から、学びとは何か、あるべき公教育とは何かを問いかけるものです。

上映はバリアフリー版(全編字幕)一回、通常版二回の計三回にわたり行いました。各回の上映開始に先立ち大川館長より挨拶および解説を行いました。

また、大崎市内の多くの方々にご覧いただくため、通常の広報の他、市内の小中学校・特別支援学校へのご案内、九月一日の県内水害で被災された皆様の無料招待などを行いました。

参加者数…計一〇四名

た児童もその他一般の児童と同じ教室で学ばせる、保護者や地域の大人たちがボランティアとして教育に参加するなど、独特な取り組みを続けています。さまざまな問題行動から学校に通うことすら困難な児童が、他校から転校してくることも少なくありません。そんな彼らがやがて休むことなく学校に通い、居場所を見つけていき、そして周りの児童、さらに教師、大人たちも、問題を抱えた新たな児童を受け入れる奮闘の中で成長していきます。本作品はそうした大空小学校の日常の中から、学びとは何か、あるべき公教育とは何かを問いかけるものです。

上映はバリアフリー版(全編字幕)一回、通常版二回の計三回にわたり行いました。各回の上映開始に先立ち大川館長より挨拶および解説を行いました。

また、大崎市内の多くの方々にご覧いただくため、通常の広報の他、市内の小中学校・特別支援学校へのご案内、九月一日の県内水害で被災された皆様の無料招待などを行いました。

参加者数…計一〇四名

職場体験実習

二〇一五年は、大崎市立古川中学校と宮城県古川黎明中学校の二校の生徒さんが、職場体験実習の授業で当館へ来てくれました。

古川中学校 二年生

七月一日〜三日  
参加者数…三名



●私が質問を記念館の方にしたときに感じたのは、自分の好きな、自分が楽しめることをやりながら、そのなかで人を喜ばせるための「やりがい」を見つけているなど思いました。それは、とても難しく簡単には実現できないと分かっています。しかし、私は将来こうなりたいです。なぜなら、

その記念館の方の目がとも輝いていたからです。

(加藤咲良さん)

古川黎明中学校 二年生

一月二日〜三日  
参加者数…二名



●一月二日・三日に、吉野作造記念館で活動させていただきました。その中で、私は展示資料の解説をした時間が最も印象に残っています。このような職場でなければできない仕事だと感じました。

●また、職員の方々の来館者だけでなく展示資料にも向けられている真摯な態度はとても素敵で、勉強になる姿ばかりでした。私は将来を決める良い経験になったと思っています。

(森田夏姫さん)

宮崎中学校見学

二月一日



宮崎中学校3年生の皆さんには、ミニ講演や見学を元に吉野作造と民主主義について考えてもらうワークシートに取り組んでもらいました。未来を担う若者たちは、記念館での学習を通じてどのようなことを考えたのでしょうか。ワークシートの回答と感想の一部をご紹介します。

Q1 「自由で平等な選挙」ってどういうことかな？

●国民全員が参加でき、みんな一票だけを投じる選挙。男も女も条件が同じ選挙。●全ての国民が自分の意志で代表を選ぶこと●性別や身分に関係なく選挙権があたえられる選挙

●どんな人でも自分の意志で参加することのできる選挙●誰でも参加することのできる選挙

Q2 なんで「自由で平等な」選挙でないと、民主主義が実現できないのかな？

●国民のための政治を行うには、すべての国民の意思によって政治を行うのが、一番近道だから。●民主主義は、政治の目的が常に国民のためにあることなので、限られた人だけだったり、公平じゃなかったりすると、国民の意見が反映されにくくなり、国民のための政治ではなくなってしまうから。

●一部の人のだけの意見ばかりが反映されると、国民全員の意見が通ったことにならないため、誰もが参加できない「自由で平等な」選挙でないとしたら。

吉野作造記念館に行っただけの感想

●日本を大きく変えた人がすごく身近に感じられました。行動力と強い信念があつて今の日本をつくってくれたすごい人なんだと初めて感じました。●(吉野作造は)人との関わり

虹の精保育園研修会

二月十九日

●人が多い人だと思いました。誰も成し遂げてないことをやる勇気や情熱も素晴らしい、日本のためを思って行動していたことがよく分かりました。

参加者数…三八名



大崎市古川の虹の精保育園(松田純武園長)では、園児の教育に吉野作造を取り入れることを目指し、園の先生方の研修会を吉野作造記念館で行いました。「知育」「徳育」に力を入れる同園では、吉野の言葉を学習活動の教材として活用することなどを考えているそうです。

参加者数…一〇名



## 《NPO法人古川学人事業》

## ヤングジヤパン応援事業

吉野作造がグローバルな視野で活躍する多くの後進たちを育成したことに鑑みて、国際協力などで活躍する若い世代の活動を紹介・支援する事業。高校生・大学生を対象とする。

## 尚綱学院大学見学会

二〇一六年一月九日

尚綱学院大学の大崎地区見学研修の一環としてご来館くださいました。講義では、吉野作造の思想の根底に、師である尚綱女学校初代校長ブゼルから伝えられた「他者への慈愛」と「社会奉仕の精神」があることを紹介しました。

参加者数…二二名



●最近、「民主主義」という言葉をよく耳にする。今の日本人のイメージはほとんどが戦後の民主主義だと思いが、吉野作造は戦前に「大正デモクラシー」とい

う形で民主主義形態を唱えていたことに驚いた。彼の考え方や主張が今日の日本の国民思想の柱となっていて知り、素晴らしい功績を残した人なのだ改めて尊敬の念を抱いた。

吉野作造は数多くの功績を残したが、その過程で彼の思想がその時代の現実と合わず政府や世論から批判を受けることも多々あったと思う。しかし彼の思想の根底に、ブゼル先生から教わった「公の為（単なる自立した生き方ではなく、その時代になかった形で世のため人の為）に働きなさい」という教えがあったからこそ、このような功績が残せたのだと思う。

今の若者が吉野作造から学ぶべきことは多い。私も彼のように自分の為だけでなく、その時代になくてはならなかった人物、常に「公」のことを考えられる人物になりたいと思った。

（大瀬浩次さん）

## 《NPO法人古川学人事業》

## シテイズンシップ普及事業

学生や市民向けに選挙投票率向上のための応援企画を実施し、また民主主義・議会政治の知識と意義を普及する事業。

## 古川学園高校主権者教育

二〇一六年一月一五・二〇日



いわゆる「一八歳選挙権」は、二〇一五年六月に公職選挙法改正が成り、二〇一六年夏の参議院選挙で初めて適用されます。古川学園高校では吉野作造記念館と協力し、初めての選挙に臨む普通科総合コース三年生を対象に「有権者になるみなさんへ（吉野作造を通して選挙を考える）」というテーマで授業を行いました。授業では政治の意義について、国民が様々な意見を持つ中で、代表を選び方針を話し合い調整していく必要があると説明し、有権者として

まずは他者や社会への関心を持つと強調しました。参加者数…六八名（一五日）六七名（二〇日）

●館長さんの講話の中にあつた、アンネ・フランクが言った「無関心」のお話にとっても関心を持ちました。ちょうど世界史の授業も習っているところだったので、自分でもっと調べてみたいと思っています。「選挙に行っても行かなくても同じ」という人がいますが、私は違うと思っています。せっかく有権者になるのだから、もっと勉強してきちんとした判断ができるようにしたいと思っています。

●吉野作造記念館に行き、展示物を見たり館長さんの講話を聴いているうちに、今まで他人事ではかかないと思っていた政治について、少し関心を持つようになりました。実際に投票できる年齢になり、権利だけでは

なく、その義務についても考えなければならぬことに初めて気づきました。しかし、実際に投票すると言っても、具体的にどの政党に投票し、誰に投票したらいいのかは全く分かりません。選挙までには、自分なりにいろいろ調べてみたいと思っています。

●館長さんの講演を聞いて、ただ単に投票に行くだけではなく、誰に投票したらいいのかを見極める力が必要になることに気づかされました。

私が興味関心を持っていることは、国の教育に対する予算です。授業では、日本はこれだけ豊かな国なのに、先進国の中では教育費にかける予算は決して多い方ではない、と習いました。これまではそれを教えてもらっているだけでしたが、こういう問題点について、自分なりに調べてみようと思いました。

本号における吉野作造記念館事業紹介ならびにNPO法人古川学人事業紹介は、二〇一六年三月一二日まで事業となり。一三日以降の事業の詳細は次号にてご紹介する予定です。

平成27年度

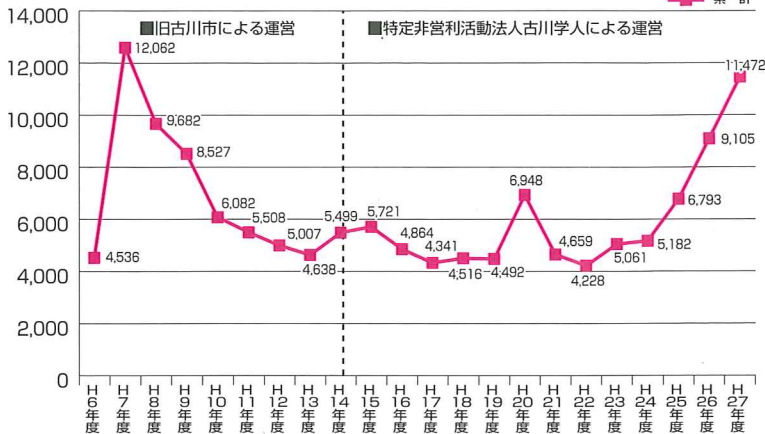
## 吉野作造記念館入館者数

**11,472名** (平成27年4月1日～28年3月31日)

うち出前講座 2,234名 開館の翌年1996年度に次ぐ多くのお客様にご利用頂きました。ここに謹んで御礼申し上げます

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,051	1,470	637	1,407	819	1,144	598	828	1,285	749	667	817

吉野作造記念館 開館からの入館者推移



## メディアでの記念館紹介

**87件**

(平成27年4月1日～28年3月31日)

おもな記事掲載

2015. 4. 1	読売新聞中部版「吉野信次 足跡再評価の動き」
2015. 4. 18～	秋田魁新報「望嶽桜の夢 滝田樽陰と近代文学者 吉野作造」(連載)
2015. 5. 29	夕刊フジ「ライス+吉野作造=ライ造くん!?!」
2015. 6. 13	毎日新聞「吉野作造と鈴木安蔵二人の交流史～」
2015. 9. 29	朝日新聞「吉野作造に贈った『舒巻忘食』 中華民国総理の書、展示」
2015. 12. 3	蘋果日報(台湾)「国立交通大学(台湾)で大川館長が講演」
2015. 12. 19	大崎タイムス「作造は『宮城の先人』郷土史講座」
2016. 2. 1	朝日新聞(各駅停話:573) 東北新幹線:12 古川 人の世に逆境なんてない
2016. 2. 17	朝日新聞「民本主義100周年 デモクラシー考える」

平成27年度

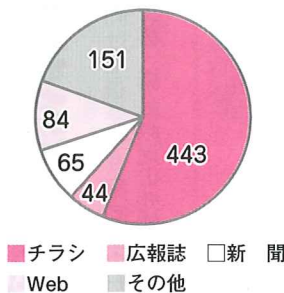
## 吉野作造記念館 アンケート集計結果

平成27年度に実施したアンケート内容の一部をご紹介します。

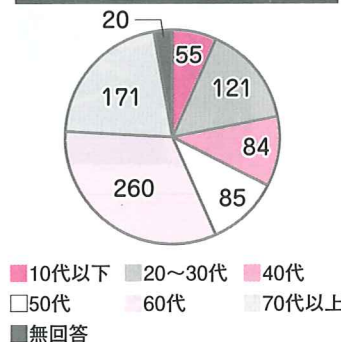
当館では今後も常時ご意見・ご感想等を受け付けておりますので、お気軽に声をお寄せください。

●集計数 **235名** (内訳：企画展、講座、GW イベント、クリスマス会、各種講演会) ※平成28年3月23日時点

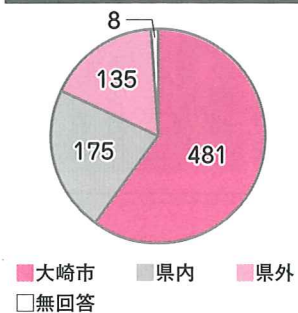
当館の情報を何でお知りになりましたか？



年齢を教えてください。



お住まいはどちらですか？



## お客様からのご意見・ご要望および改善・対策 ※抜粋

### 見学やイベントに参加してみたのご感想

- 日本国憲法の源流は自由民権運動や大正デモクラシーの時代にその萌芽があったのですね。とても感動しました。多くの人に見てもらいたいです。 (企画展)
- 子供と一緒に来て始めは落ち着きなく走り回っていた子がコンサートをみていると歌やクイズに夢中になってきて色々な経験ができました。 (クリスマス会)
- 参院選より18歳以上の若者が有権者に仲間入りするので立憲主義の精神、より広く周知するようご尽力願いたい。 (年度末アンケート)
- 日本各地の記念館をまわっていますが、御記念館は中でも特筆すべき活動を多々行っており、刮目に値すると思っております。 (年度末アンケート)
- 吉野作造という立派な方が居られるのに、私を始めあまり関心が無かったと痛感しております。これからは市としてももっとPRして学校教育にも取り入れ身近に気軽に浸透していくよう願っています。 (生誕記念コンサート)

### お客様のご要望に対する改善について

- 災害時の被災者支援について、吉野先生の志を生かす提言を期待する。  
**改善** 国連防災世界会議パブリックフォーラムにて、吉野作造の精神を伝えました(1頁参照)。
- 年に1回くらい仙台市内(メディアテーク等)中心部で、講座・講演会を行って欲しい。  
**改善** 2015年の12月に郷土史講座を実施しました(8頁参照)。
- 参加するたびに意義のある団体と感じています。職員の皆さんの活躍に敬意を表します。別室で観覧できる時のマイクの調整は職員の方の確認をお願いします。  
**改善** 今後機材トラブルが発生しないよう予防と対策、対応を徹底します。

平成27年度のおもな記念館行事・出前講座一覧

※NPO法人古川学人事業はP11へ

Table with columns for date, event name, location, and attendance. It lists various events from 2015 (平成27年) to 2016 (平成28年), including seminars, exhibitions, and lectures.

平成27年度 当館の事業へボランティア協力いただいた皆さま

宮城誠真短期大学様、大崎市ボランティア協会様、会田征子様、大崎市立古川中学校様、ハンドベルサークル「カリオン」様、キッチンパバ様、宇津木浩恵様、やさしい畑様、ラス・フラウティスタス・デ・マジョーブ様、コーラス・夢様 (順不同)

寄贈資料一覧

平成二十七年三月〜平成二十八年二月

多くの皆様のご厚意により貴重な資料をご寄贈いただいております。厚く御礼申し上げます。

「敬称略」

- List of donated materials including books like '影山礼子「フェル先生とバイブル・クラスの学生たち」', '世界「第870号」', '松山創「紀水・松山常次郎」', etc.

# 台湾のシンポジウムで「エネルギー政策と民主主義」講演

○台湾国立交通大学講演会／第31回中日工程技術研討會能源政策産業人文組（第31回日台科学技術検討会部会）  
 ・平成27年12月1日／2日 《NPO法人古川学人「東アジア交流事業」「被災地支援事業」》



馬英九總統を表敬訪問（11月30日）



日台科学技術検討会（12月2日）



国立交通大学での講演（12月1日）

今年で三一回目を迎えた中日工程技術研討會（日台科学技術検討会）は、「人文・社会科学」との交流という目標を掲げ、日本から大川館長が招聘されることになりました。大川館長が参加した部会「能源政策産業人文組」（エネルギー文化部会）

## ○第三回中日工程技術研討會能源政策産業人文組 （日台科学技術検討会） エネルギー政策・経済・文化部会

二月一日

参加者数…二一名

## ○台湾国立交通大学講演会

二月一日

日本学研究者である台湾・国立交通大学の藍弘岳教授の招聘で、大川真館長が同大学にて「核能問題與日本民主主義（原子力問題と日本の民主主義）」というタイトルで、被災地の現状を講演しました。その中で福島県浪江町の「希望の牧場・ふくしま」に宮城県白石市から八〇〇〇ベクレル以下のいわゆる「汚染牧草」が飼料として持ち込まれたことを紹介し、放射性廃棄物処分分の困難さを伝えました。本講演は台湾の新聞「蘋果日報」一二月三日号に記事掲載されました。

ギー政策・経済・文化部会）では、両国の原子力政策をめぐめる問題がメインに議論が交わされました。

大川館長は「問われる日本のエネルギー政策と民主主義」と題し、放射性指定廃棄物の最終処分場選定問題を取り上げました。内閣府原子力委員会へ提出された日本学術会議の「高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォロワーアップ検討委員会」での答申が十全に反映されず、特に強調されていた住民との対話・合意形成が国や県で軽視されていることが現在の膠着状態の最大の原因であると指摘しました。いわゆる核のゴミ問題は世界的なレベルで問題となっており、原子力政策を進める台湾でも多大な関心が寄せられました。

なお会議に先んじて、台湾の馬英九總統（当時）への表敬訪問も行いました。

参加者数…一三〇名

### 関連する記事

- ・国連防災世界会議↓P1
- ・南三陸SAP↓P14

台湾地震救援募金のご報告と御礼  
 募金総額 四、五四〇円  
 募金は日本赤十字社の「二〇一六年台湾地震救援金」へ寄付致しました。ご協力くださいました皆様に御礼申し上げます。

## 吉野作造記念館

〒989-6105 宮城県大崎市古川福沼1-2-3

TEL 0229-23-7100  
 E-mail yoshino-npo.fg@blue.ocn.ne.jp  
 URL http://www.yoshinosakuzou.jp

利用案内	開館時間	9時～17時(入館は16時30分まで)				
	入館料	区	常設展	企画展(常設展含む)		
		分	個人	団体(20名以上)	個人	団体(20名以上)
		—	310円	250円	500円	400円
	高 校 生	210円	160円	300円	200円	
	小・中学生	100円	80円	200円	100円	
	休 館 日	月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日が休館日) 年末年始(12月29日～1月3日)				

### 平成27年度 YOSHINO サポーター

<b>若見自動車整備工場</b> 安心と満足追求! ガスは佐藤産業! 〒宮城県大崎市古川江合本町2-4-11 電話 0229-22-1141	太陽日酸株式会社特約店 <b>株式会社 佐藤酸素</b> 〒宮城県大崎市古川江合本町1128 電話 0229-24-0011	<b>株式会社 北都開発</b> 〒宮城県大崎市古川十日町7-8 電話 0229-22-1089	看板のことなら <b>株式会社 美研</b> 〒宮城県大崎市古川十日町1-10 電話 0229-22-1816
人・街・くらし 明日のコーディネーター <b>MURATA CORPORATION</b> 株式会社村田工務所 URL: http://www.murata-kousayasu.co.jp	あなたに代わってお手伝い! パソコン・コピー 〒宮城県大崎市古川十日町1113-57 電話 0120-808-878 <b>ベントリー宮城古川店</b>	環境と健康の大切さを共に考える <b>WAGATUMA.K.K</b> <b>我妻建設(株)</b>	隣人愛に燃え、実践を志す <b>株式会社 美研</b> 〒宮城県大崎市古川十日町1-10 電話 0229-22-1816
<b>株式会社 共同システムサービス</b> <b>古川ガス株式会社</b>	あら・伊速な道の駅 <b>アクセス</b>	やればできる <b>内藤印刷有限公司</b>	仙台牛 <b>YAKINIKU-HOUSE</b>